

## ■稲童1号掩体壕

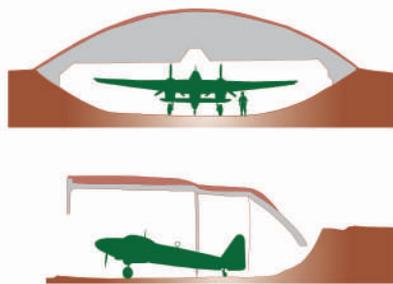
「掩体壕」とは、軍用機を敵の空襲から守る格納施設です。昭和19年(1944)8月頃、築城海軍航空隊築城飛行場北側の稲童地区に掩体壕が造られ、誘導路で飛行場とつながっていました。屋根のある「有蓋掩体壕」が8基、「コ」の字状の土塁で周りを囲み、軍用機を偽装網や樹木などで隠す、屋根のない「無蓋掩体壕」が20基前後造られました。戦後に多くが取り壊されましたが、今も幾つか残っています。

稲童1号掩体壕は、夜間戦闘機「月光」、陸上爆撃機「銀河」、「一式陸上攻撃機」等の中型機を格納するための大型の掩体壕です。鉄筋コンクリート製の天井や壁面には、コンクリート打設時に型枠として使用した板材やその痕跡、丘陵を掘り下げた土の形跡が残り、築造工程がうかがえます。コンクリートが固まった後、丘陵を床面まで掘り下げた土で、掩体壕の上を覆いました。

稲童地区は、掩体壕などの軍事施設があったため、幾度も空襲を受け、この掩体壕の壁面や安浦神社、近隣の墓地などに機銃掃射の弾痕が残っています。特に昭和20年(1945)8月7日の空襲による被害は大きく、格納されていた夜間戦闘機「月光」が炎上しました。



掩体壕前の誘導路の煉瓦敷と空襲跡  
(整備前の発掘調査時)



稲童1号掩体壕(軍用機の格納状況)  
※機影は銀河

## ■稲童1号掩体壕史跡広場

稲童1号掩体壕は平成14年(2002)12月2日に市の史跡に指定され、翌年より発掘調査や補修工事などを行い、平成22年(2010)に史跡公園としてオープンしました。



## ■機銃掃射の痕が残るレンガ塀

民家の塀を稲童1号掩体壕史跡広場に移設・保存したものです。全面に機銃掃射の痕跡が残っており、軍事施設だけでなく周辺の民家も激しい空襲を受けたことをものごたる歴史資料です。



## 稲童1号掩体壕の位置



### アクセス

- JR九州・日豊本線「新田原駅」から車で約5分(徒歩約40分)
- 東九州自動車道「みやこ豊津IC」から車で約10分

### ■お問合せ■

### 行橋市教育委員会 文化課

〒824-8601 福岡県行橋市中央1丁目9番2号  
TEL 0930-25-1111 FAX 0930-25-1582  
<http://www.city.yukuehashi.fukuoka.jp/>

### 行橋市歴史資料館 休館：火曜

8/15、12/28～翌1/4

〒824-0005 福岡県行橋市中央1丁目9番3号  
TEL 0930-25-3133 FAX 0930-25-3138

2018.3 第2版

## 行橋市指定史跡

# いな どう いち ごう えん たい ごう 稲童1号掩体壕

Inado bunker No.1



[指定種類] 市指定史跡

[指定年月日] 平成14年12月2日

[指定面積] 4,467㎡

[所在地] 福岡県行橋市稲童

[築造年代] 昭和19年(1944)8月頃

[概要] 太平洋戦争末期、軍用機を隠し、空襲から防護するために、築城海軍航空隊の築城飛行場周辺に多数造られた掩体壕の一つ。双発の中型機を格納できる大規模な掩体壕

[盛土幅:42.0m / 盛土高:8.5m / 奥行き:23.5m / 入口幅:26.8m / 入口高:5.5m]

[主要遺構] 有蓋掩体壕、誘導路跡、空襲跡

※ 壕内は立入禁止

行橋市教育委員会

## ■ 築城飛行場

昭和14年(1939)12月、日本海軍が建設を開始します。福岡県東部のこの地域に飛行場が配置されたのは、瀬戸内海や関門海峡を控えた内海航路の要衝であり、洋上爆撃・雷撃訓練も容易であったことによります。

昭和17年(1942)6月のミッドウェー海戦の大敗によって、日本海軍は航空機や熟練搭乗員を多数失い、搭乗員の補充が課題となりました。築城海軍航空隊も練成基地として、戦闘機搭乗員の教育や実機訓練が行われました。

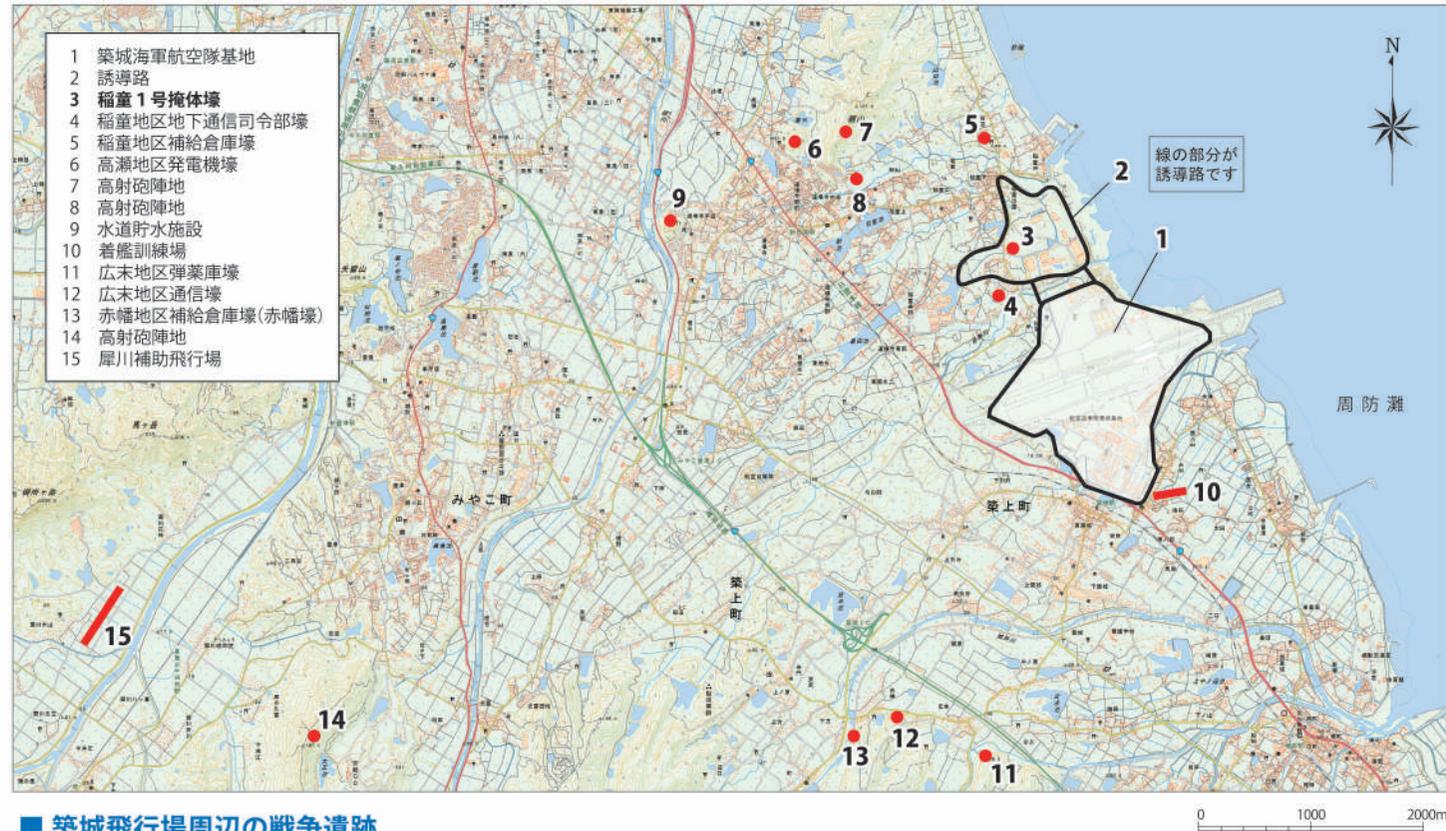
昭和17年10月1日、飛行場の完成を待たず、初代築城海軍航空隊が富高(現・宮崎県日向市)に開隊します。翌年には富高から築城へ航空隊が移り、本格的に活動を開始しました。当時の飛行場の面積は145万㎡で、滑走路は長さ1800m、幅50m、周防灘に向かって、西南西から東北東の方向に伸びていました。太平洋戦争末期には、特攻隊の出撃や中継の基地にもなり、多くの兵士がこの飛行場から、飛び立って行きました。

昭和20年(1945)8月の敗戦後、米軍に接收され、昭和30年(1955)から航空自衛隊の施設となりました。現在、飛行場や関連施設は行橋市、築上町、みやこ町にまたがり、「航空自衛隊築城基地」として利用されています。

## ■ 関連年表

昭和14年春	海軍が飛行場建設計画の通知を八津田村役場へ出す。
昭和14年12月	築城飛行場建設が開始される。
昭和16年12月8日	太平洋戦争がはじまる。
昭和17年6月	日本軍、太平洋のミッドウェー海戦で大敗。
昭和17年10月1日	初代築城海軍航空隊が富高(現・宮崎県日向市)に開隊。富高から築城へ、初代築城海軍航空隊が移転する。
昭和18年6月	零戦による訓練が開始される。
昭和18年12月	第十二航空艦隊第五十一航空戦隊に編入される。
昭和19年1月	第五五三航空隊と改称され北海道美幌に移る。
昭和19年2月	筑波海軍航空隊が移駐し第二代築城海軍航空隊が開隊。
昭和19年7月	サイパン島が陥落し、以後本土空襲が激しくなる。
昭和19年8月頃	大都市において学童集団疎開がはじまる。築城基地周辺に掩体壕・誘導路が築造される。広末地区に地下壕がつくられる。
昭和19年9月頃	築城基地に特別攻撃隊(特攻隊)が編成される。
昭和20年3月	九州沖航空戦(3/18～3/21)。米軍機による築城基地と周辺地域への銃爆撃。築城基地から神風特別攻撃隊菊水部隊銀河隊が、陸上爆撃機「銀河」6機で九州東方海上の米機動部隊に向け出撃し、5機が未帰還となる。稲童地区に地下通信司令部壕がつくられる。
昭和20年4月1日	米軍が沖縄本島に上陸。
昭和20年8月6日	広島に原子爆弾が投下される。
昭和20年8月7日	米軍機(B-24やグラマン)の大規模空襲を受けて築城基地と周辺地域が壊滅的な状態となる。
昭和20年8月9日	長崎に原子爆弾が投下される。ソ連が参戦する。
昭和20年8月15日	終戦。
昭和20年9月	築城海軍航空隊、廃止となる。

参考文献：航空自衛隊築城基地『築城基地開設五十年史』1993年

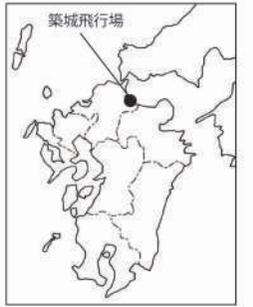


## ■ 築城飛行場周辺の戦争遺跡

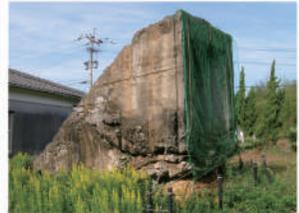
太平洋戦争末期、激しくなった空襲による被害を避けるため、築城飛行場周辺に基地の施設が分散配置されました。



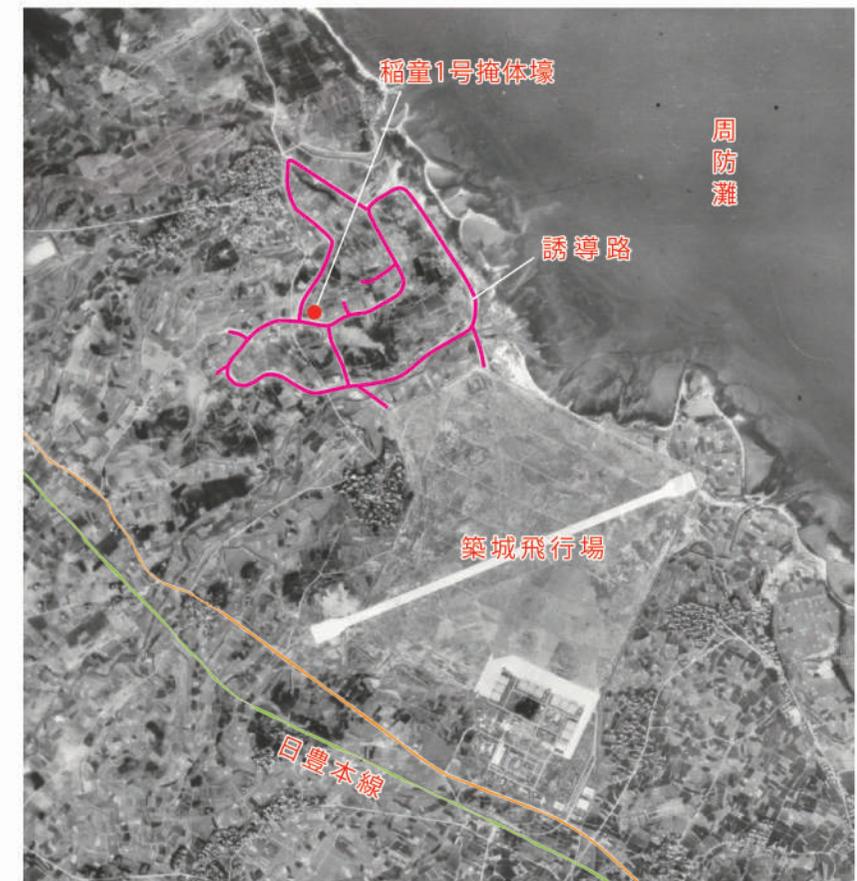
稲童・松原地区の戦争遺跡分布図



安浦神社の空襲跡



稲童地区地下通信司令部壕



終戦後の築城飛行場〔米軍撮影航空写真〕(1947年12月15日撮影)